

平成13年11月13日
東 京 都

小笠原空港の今後の取扱いについて

小笠原空港については、平成10年5月19日に時雨山周辺域を建設地と決定し、調査・検討を行ってきましたが、このたび下記のとおり「現計画を撤回し、新たな航空路案を検討する」こととしたので、お知らせします。

記

1 現計画の撤回

自然環境への影響や事業費の増加などから時雨山周辺域での空港建設は困難であると判断し、現計画を撤回する。

環境現況調査の結果、環境省や東京都のレッドデータブックに記載されているムニンツツジなど絶滅危惧種等44種の貴重な植物や、オガサワラノスリなど国の天然記念物に指定されている動物22種等が確認された。

この結果を踏まえ、学識経験者等により構成される小笠原自然環境保全対策検討委員会からは「影響を被る貴重種が多数あり、保全方策を確実に講じたとしても影響軽減効果には限界がある」旨の意見書が提出された。

環境保全対策を含めた事業の見直しにより、総事業費が1,100億円を超えること、事業期間についても長期間を要し、完成が早くても平成30年度以降となる見込みとなった。

2 新たな航空路案の検討

費用・環境・技術面から、新たな航空路案の検討を行う。

既存施設の利用などを含め検討する。

技術開発の動向なども踏まえ、幅広く検討する。

3 その他

現在小笠原諸島への交通アクセスとしては、定期航路のおがさわら丸で約25時間30分（年間59往復）を要する状況である。なお、平成16年度に超高速船（テクノスーパーライナー）の就航が予定されており、所要時間が約16時間程度（年間92往復）に短縮される。